

2014年

春の課題作文優秀作品【小学部】

柿生校 Y・Sくん（片平小）

「知識を得る」。それは自分を育てることだと思おう。

例えば、本を読むとする。ページを開くとたくさん言葉が出てくる。これらの言葉は、全て自分が入手したと思っただけ。なぜなら、その言葉を生活に役立てることが出来るのだから。

また、人とのコミュニケーションはとても大事だ。キャッチボールに例えると、言葉を投げると、それに対する返答が投げ返される。もしたくさん知識を得ているなら、ボールの勢いももっとつく。

国語の授業で、この人物はこのときどのような気持ちだったのだろうかという問題が出され、それを自分で考える。そのときの考えは、ひとそれぞれだ。しかし、他人とまったく同じ考えの場合もある。それはそれで、2人とも意見を分かち合ったということになる。つまり、自分で考えたと自分なりの考えを持ち、ぶつけることができる。そして、他人と話し合える。このように、自分なりの考えをもつことはとても大切なことである。

知識を得る喜びと自分で考える喜びとは少し違う。だがどちらも大切なことであり、この喜びを経験すれば人生が変わるかもしれない。

春の課題作文優秀作品【中学部】

ふれあいの丘校 F・Tくん（川和中）

「人から学ぶこと」と「自分で考えること」僕は後者の方が大切だと思う。なぜなら、考えることが学ぶことにつながっているからだ。

現代の日本は開発企業が著しく発達している世界有数の先進国だ。最先端技術を搭載した道具も年々増えてきており、情報の流通が盛んになっている。しかし、それが裏目に出て僕達若い世代の考える能力というものが低下しているということも事実である。

まず僕は、「考える」と「学ぶ」という言葉の意味を辞書で調べてみた。すると、「考える」という言葉は知っている事柄を生かしながら筋道を立てて頭を働かせるという意味であり、「学ぶ」という言葉は教えを受けて覚えるという意味だった。自分の最大限の知識で考え、その後人から学び修正したり知識を加えていったりするというのが正しい順序なのである。しかし僕達若い世代では、この「考える」というステップを踏まず「学ぶ」という段階に移ってしまうということが日常化してしまっている。結果、考える力の低下を招いてしまっているように思う。

国語の教科書にアイスプラネットという話がある。この話は、これからの日本を担っていく僕達に向けたメッセージが書かれている特別な話だ。この話の中に、「不思議アタマ」という言葉が出てくる。この言葉の真意は、「若い僕達がたくさん疑問を持ち、それを自分で考えて解決する」というものだ。

僕は中学生であり、大人と子供の境目に立っている。これからあらゆる場面で人から期待されるだろう。その期待に応える為にたくさんを知り、いっぱい「不思議アタマ」になりたい。また、何気ない日々にも考えるきっかけはたくさん隠されている。そのきっかけを見逃さず、考え、学ぶことが人を成長させるのだと僕は思う。

センター北校 T・Mさん（中川中）

私はA案とB案のどちらにも肯定的に考えている。なぜなら、人に聞いたり、本を読んだりしたことを自分の知識にすることで新しい考えや物が生まれれると思うからだ。

私には創造という言葉がハードルの高いものに感じられたため、馴染みのある「アイデア」という言葉に置き換えて考えてみた。アイデアという言葉は、新しいものに触れ、それを今まで自分の中にあつた知識と組み合わせるものだと自分なりに捉えてみた。

新しいものに触れるには興味がつきものだ。ちょっとした疑問や興味がないと、調べたり人に尋ねたりしないだろう。私の場合は語学だ。小学校一年生から英会話教室に通っていて、英語に週一回というペースで触れてきた。日本語とは違う感覚にとても惹かれ、ある時からは他国の言語にも興味を持つようになった。スペイン語はローマ字読みで文法も日本語に似ていると聞いたため、やってみたいと思い、以来少しずつ独学ではあるが始めている。

こうして、勉強していることで何か新しいアイデアが出来たわけではないが、知識を増やしていくことがアイデアを出す、つまり創造することにもつながると考えた。なぜなら、アイデアは、いくつかの知識を自分なりに組み合わせることができるものだと考えるからだ。それには、知識を選ぶセンスや普段の情報収集も大切になってくると思う。例えば、ニュースを見たり新聞を読んだり人と会話してみたりなどだ。もちろん、A案のように読書もアイデア作りのきっかけとなり、知識はB案の教えにも置き換えられる。そして、選ぶセンスは自分にしかなく、もしかしたらそれで新しい物ができるかもしれない。だから、これから私は日々身の回りに起こるたくさんの方の出来事に関心を持ち、今までの知識と組み合わせてみたいと思う。

このように、人に聞いて自分で考えることは創造の手段であり、創造をすることは自己形成の一種の方法ではないだろうか。

長津田校 T・Kさん（田奈中）

「早く宿題をやりなさい。」私のやる気は、なくなる一方である。「親の背中を見て子供は育つ」とよく言うが、親のことを子供はよく見ていて、親の行動や考え方を理解しながら成長していく。私たちはいろいろなことを親から学ぶ。

例えば、お箸の持ち方やあいさつ、これらの多くのことを直接言葉で教わる。だが、親の言動から教わることも少なくない。私の場合、遊んでいるときに、「早く宿題しなさい」と言われると、うるさいと思ったりやる気がなくなったりする。「もっと良い言い方があるんじゃないか」と考えてみた。例えば、「とりあえず、遊ぶのはここまでにして宿題をやってから遊んだら」とか、おかしと一緒にメモを置くなど、考えることが楽しいと思えた。

それから私は、人の行動や人と人との接し方などに興味を持つようになった。そして、人間観察をするようになった。観察をしていく中で、一つの言葉の言い方次第で人に与える印象が違っていたり、さまざまな疑問点が浮かび上がったりする。それを一つ一つ自分で考えて答えを出した。

私は、人から学ぶことは、自分を成長させてくれる材料であり、疑問の多い謎であると思う。そして、自分で考えることは、人から学んだことを理解して自分のものにし、自分なりに工夫することだと思う。

人から学ぶことは、良いところだけでなく、悪いところ、弱いところも学ばなければ大きな成長はできず、自分で考えるという機会は少なくなると思う。